

※このメールは、MIT・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC
でお送りしています。

※四半期に 1 度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信してい
ただけますと送付リストから外します。よろしくお願いいたします。

皆さま、2015 年が始まりましておりますが、いかがお過ごしですか？ クリスマス休暇、新
年のお休みもつかの間に、1 月中旬からは、私たちのところに日本から視察が次々と来て
います。外は寒くて、雪みぞれが多く、空はどんより鉛色。視察日和とは言い難いんです
が、省エネ建築の関係者などは、冬のドイツの屋内環境を体験するのも 1 つの目的とされ
ているようです。

今回も、MIT メンバー 3 名から、皆さまに最近のドイツ・スイスのエネルギーなどの動向につ
いてのコラムと各種の告知についてメールニュースをお送りします。まず最初は重要なお知
らせから、そしてその後、滝川→池田→村上という順でコラムを書いています。最後までお
楽しみくださいね(村)。

!!!お知らせ!!!

**★MIT による新企画 『MIT ネットワーキング会議』を 2015 年 5 月 26 日に開
催！**

MIT Energy Vision 社が視察セミナーを提供し始めてから 2 年半が経過します。その間、視
察に参加された方の中には、すでに日本の地域において再生可能エネルギーや省エネル
ギーの事業に実践者として行動されている方々がお見えになります。

MIT では、これまでのセミナー参加者内で、こうしたパイオニアと言われる実践者の貴重な
経験を共有し、意見交換を行い、横の繋がりを作る機会を設けたいと考えています。そのた
め、2015 年 5 月 26 日(火)に「第一回 MIT ネットワーキング会議」を東京で開催します。

会議では、約 6~8 名の異なる分野で事業に取り組む方々のプレゼンテーションと質疑応
答、ディスカッションを予定しています。その後、懇親会で交流を深めて頂ければ幸いです。

これまでに MIT 社が提供する視察に参加された方であれば、同伴者 1 名まで併せて参加
可能です。会場(Max35~40 名)が決まりましたので、残り可能な参加者数はあと 15 名程
度となっています。お申し込みは下記のメールアドレスまで。定員に達し次第、締め切らせ
て頂きます。プログラムの詳細、会場は以下を御覧ください。

申し込み先

MIT Energy Vision 社(滝川): takigawa@mit-energy-vision.com

開催要旨

日付:2015 年 5 月 26 日(水)

会議:14:00~17:00 (参加無料)

懇親会: 17:30~19:30 (希望者のみ、実費有料 4000~5000 円を予定)

場所: 東京・新橋の一社クラブウォーバン会議室

<http://bit.ly/15KfPD>

共催: 一般社団法人クラブウォーバン、株式会社日本エネルギー機関

プログラム(予定)

13:30 受付、本の販売、懇親会の費用集金

14:00~14:10 主催者挨拶(滝川)

14:10~15:10 事例発表(4人)+質疑応答

※太陽光発電(市民出資)、木質バイオマス、小水力について

15:10~15:20 休憩、本の販売

15:20~16:20 事例発表(4人)+質疑応答

※省エネ建築、太陽光発電(市民出資)について

16:20~16:50 ディスカッション(司会 村上)

16:50~17:00 まとめと MIT からのお知らせ(滝川)

17:30~19:30 懇親会(希望者のみ、要申込み)

MIT: 滝川

東スイスに引っ越しして

私事ですが、年末に東スイスに引っ越しました。引っ越し先は州都シャフハウゼン市からバスで 20 分くらいの小さな村です。

まだ少しずつ地域情報を集めている段階ですが、森の豊かな地域ということもあり、引っ越し先の村だけでなく、周辺の多くの村で木質バイオマスによる中心街の地域暖房が使われています。引っ越し先の村の地域暖房は、森林からの低質材を用いており運転歴 20 年。新興住宅地には接続が義務化されているようです。

対してお隣の村では民間の木造建設会社が地域暖房業者になっています。いずれも農村部では典型的な熱供給パターンの一つです。(もちろん地域によって多様な熱源がありますが)。

スイスの熱消費に占める再生可能エネルギーの割合は 18%程度(13 年末)ですが、熱消費側の満たすべき義務はどんどん厳しくなっています。年始に出来上がった建物省エネ規制法は、今後数年間かけて実施されていくものですが、そこで新築に求められる断熱性能はパッシブハウス基準よりも少し緩いレベルで、熱需要に関してはほぼ全量を再生可能エネルギーでまかなうことが義務付けられています。その他、既存の電気暖房や電気ボイラーも 15 年内(ゆっくりですが...)の交換が義務付けられているほか、既存の化石エネルギーの熱源の改修に際しても一部再エネを用いることが義務付けられました。

私たちMIT・エナジー・ヴィジョンでは、今年もドイツやスイスから日本の総合的なエネルギーヴェンデを推進すべく尽力していきます。11月には地域熱供給、電力自家消費、地域電力事業などをテーマとした視察セミナーを企画しております。どうぞよろしくお願いいたします！

MIT: 池田

ミュンヘン BAU(建築メッセ)に訪問

先週、視察の仕事でミュンヘンのバウメッセ(建築メッセ)を訪問しました。2年に一度のヨーロッパ最大(おそらく世界最大)の建築メッセです。

私も初めての訪問でしたが、その規模にまず圧倒されました。サッカー場 30 個分はあると思われる敷地の約 15 の大きなホールで、ヨーロッパ各地の様々な企業による展示が行われていました。

建築は人間が生活して行く以上、必ず必要になるもので、エネルギーと同様、継続性のある比較的安定したビジネス分野だと思います。また、うまくやれば、地域で雇用とノウハウを生むビジネスでもあります。

もう 10 年以上前から、ドイツでトレンドとなっている、省エネ建築、省エネ改修、健康住宅が、今後もさらに進んでいく、という印象を私は持ちました。また、自然素材によるデザインも今後より一層注目されていきそうです。木材を使ったデザインでは、レトロさとモダンさを組み合わせ、濃い色調のものが目立ちました。

ただ、このメッセ、大きすぎて、展示料金もかなり高価なようで、資金力のある大きな企業の展示が中心になっており、小さな専門メッセで見れるような、小さな企業の面白いアイデア商品やイノベーションが見れなかったのが残念です。

日本でも現在、省エネ建築、省エネ改修が一般的になりつつあります。また木材の利用も東京オリンピックに向けて注目されています。国を地域を豊かにする、地域にお金落ちるような手法と仕組みで、それらが進められて行って欲しいものです。

MIT: 村上

日本で地域熱供給は普及するか？ と、その前にもっと理性を働かせよう。

昨年 12 月に 1 週間ほど日本のある都市を訪問しました。ドイツから地域暖房の設計をすでに 25 年以上手がけているエネルギーエンジニアと共に、日本のその都市において地域熱供給の熱源(コジェネ)、配管、システムのプレプランニングを実施するためです。

そこで驚いたのは、日本の既存建物(商業施設、公共施設、ホテルなど)にすでに設置され

ている給湯装置(ボイラーなど)の過剰な出力規模。お湯を使用している流量の測定結果から精密に計算すると、本来 20kW 出力で十分に賄えるような建物においても、ちゃっかりと 200kW のボイラーが 2 台居座っている、なんてことばかりでした。おそらくこうした過剰出力の設備の設備利用率(稼働率)は年間 5%にもならないでしょう。なんせ 20~30 倍の出力が据え付けられているわけですから。

『頭を使いたくない(お施主さんが自分で調べたり、計算するのが面倒くさいので設計者任せ)→ノウハウや能力がない(その設計者はそもそも計算出来ないので設置業者任せ)→一瞬でもお湯がぬるくなればクレームばかりのお施主さんにはどうせ分からないのだから安全側に大きな設備を設置し、出来る範囲でお金儲けをしたい(業者が保身のためにもっとも都合の良い設備を導入)、という一連の流れで、設備を安全側、安全側に関係者すべてが見積もって、施工される頃には熱源の出力過剰や配管径の過剰、ポンプの過剰が 10 倍とかになることはよくあることだよ、これはドイツでも、欧州でも一緒。でもここはちょっとひどすぎるけどね・・・』というのが、ドイツ人エネルギーエンジニアの感想でした。

さて、皆さんはエネルギー源とどんなつきあい方をしていますか？ 過剰設備になっていない？

お知らせ

★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター

ミット・エナジー・ビジョンでは、南ドイツの市民エネルギー会社であるソーラーコンプレックス社のニュースレターの日本語版の作成に協力しています。下記より 2014 年 12 月号をご覧ください。

<http://48787.seu1.cleverreach.com/m/6074272/>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！